

第5節 その他構内の立会調査

1 湯田宿舎A棟給配水その他改修に伴う立会調査

調査地区 山口市湯田温泉6丁目

調査期間 平成3年8月26日

調査方法 工事施工時における立会調査

調査面積 約30m²

調査結果 A棟の屋外工事は既に終了し、当該年度は屋内工事のみであった。併せて、B棟・C棟の屋外工事が行なわれ、この2棟分について立会調査を実施した。

B棟北側は、長さ20m、幅0.5mの掘削を行った。現地表面から5cmまでは舗装面のコンクリート、13cmまでにおい橙色の真砂土、23cmまでにおい黄褐色の礫混じり粘質土、31cmまでが明黄褐色の礫混じり粘質土で、すべて埋め土の範囲内であった。遺構、遺物とも検出できなかった。

C棟北側の西寄りには、長さ20m、幅0.5mの掘削を行った。現地表面から9cmまでは砂混じりの表土、20cmまでは焼土、50cmまでは径5cmまでの礫を含む黄褐色粘質土で、すべて埋め土の範囲内であった。遺構、遺物とも検出できなかった。

C棟北側の東寄りには、長さ20m、幅0.5mの掘削を行った。現地表面から6cmまでは砂混じりの表土、28cmまでは礫混じりの粘質土で、黄褐色粘質土と灰褐色粘質土がブロック状に入る。すべて埋め土の範囲内であった。遺構、遺物とも検出できなかった。（古賀）

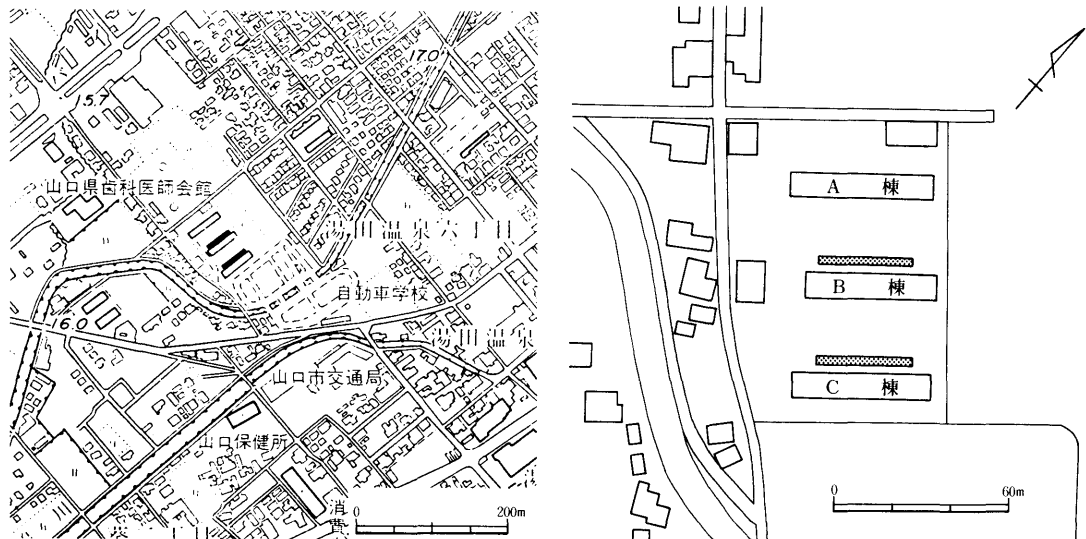


Fig. 27 調査区位置図

2 経済学部6号職員宿舎電柱設置に伴う立会調査

調査地区 山口市旭通り二丁目1937-1

調査期間 平成3年11月5日

調査方法 工事施工時における立会調査

調査面積 約0.5㎡

調査結果 工事地域は山口盆地のほぼ中央部に位置し、一の坂川下流の沖積低地上に立地する。今回の調査地域周辺の畑地では、過去に中世の土師質土器や姫島産黒曜石製の剥片が採集されていることから、工事規模を勘案して立会調査を実施した。

工事による掘削は現地表面から約240cmまでで、基本層序は上位から第1層：表土、第2層：砂礫、第3層：粗砂である。第2層は現地表面から約50cm下位で検出され、層厚は約120cmとかなり厚い。調査地域内では第2、第3層とも遺物は包含していなかった。

調査地域は蛇行しながら樫野川へ注ぐ一の坂川のすぐ右岸に位置していること、また、調査区内での堆積層が砂や礫であることなどから一の坂川の氾濫原にあたると思われる。なお、今回の調査と併行してすぐ西側の住宅地で行われていた工事では、現地表面下約2mで地山と考えられる黄褐色粘土の堆積がみられたことから、当該地域一帯の地山面がかなりの起伏をもっていることが想定できる。 (河村)

[注]

- 1) 山口大学埋蔵文化財資料館「経済学部職員宿舎下水管改修に伴う立会調査」(『山口大学構内遺跡調査研究年報VI』、1987年)。

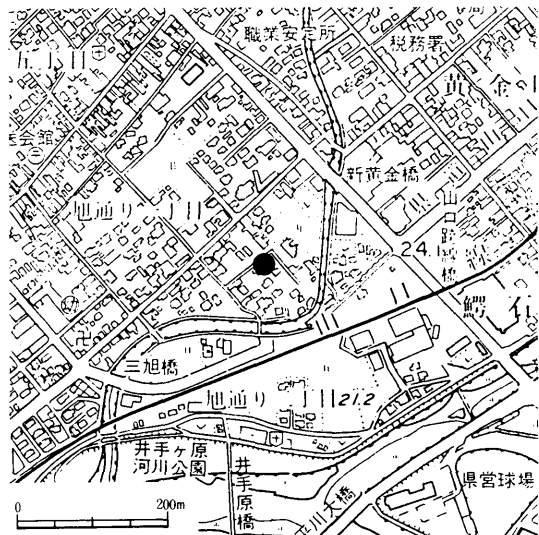


Fig. 28 調査区位置図

3 人文・理学部職員宿舎公共下水道切替に伴う立会調査

調査地区 山口市天花932-2

調査期間 平成4年3月30日

調査方法 工事施工時における立会調査

調査面積 約1㎡

調査結果 工事地域は山口盆地の北東端部に位置し、一の坂川によって形成された扇状地の扇頂部付近に立地する。周辺ではこれまで遺跡は周知されていないため、工事に際して立会調査を実施した。

工事は6カ所の集水樹の設置とこれから分岐する宿舎北側と東側を巡る排水管の埋設であったが、攪乱の可能性が少なく、また、掘削深度の深い集水樹のうち2ヶ所を選定して調査を実施した。

第1地点では、層厚約50cmの構内造成土の直下に暗褐色角礫混じりの粘質土（10YR3/4）の地山が検出され、他に顕著な堆積層は認められなかった。また、第2地点では、構内造成土の下位には旧耕作土が残存し、現地表下約65cmで地山に達する。なお、構内造成土中には後世の掘削による地山の削平土が客土されており、周辺地域の削平が比較的大規模に行われていることが窺われた。

両地点とも出土遺物はなく、遺構も検出されなかった。（河村）

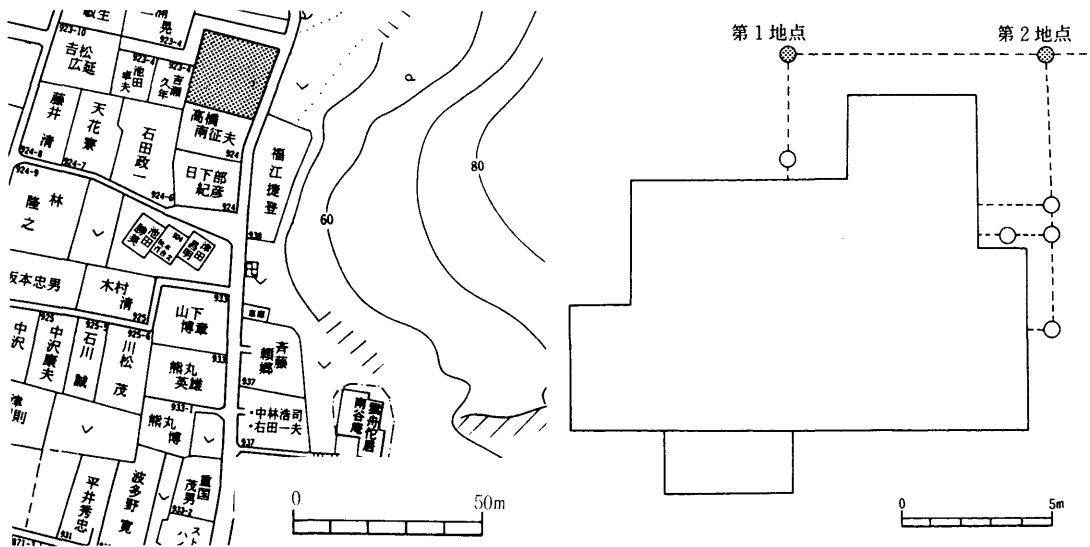


Fig. 29 調査区位置図